

2018 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

## 多様性を大切にする

(原文)

高木 昌斗 (12 歳)

長野県

松本秀峰中等教育学校

私が起こしたい変化は、多様性を大切にして、個性を尊重することです。このように思ったきっかけは、クラスの友達の行動です。

授業のあいさつのとき、礼をするのと同時に頭を机に打ちつけていました。私は、「笑いをとろうとした。」と感じましたが、「みんなが真剣に授業を受けようとしている空気をこわした。」とも感じました。他の友達も、

「ちゃんとやれよ。」

「何ふざけてんの。」

ということをしていました。この友達は他にも、急いで移動しなければいけないときに床をはいずって移動する、授業中に私語を使って全く関係のない理科の話をするということをしていました。たしかにこの友達は良いとは言えません。ですがそれは、一方だけから見て判断した結果です。「机に頭を打ちつけて、笑いをとろうとした。」「急いで移動しなければいけないときにはいずって移動する。」これを別の見方から考えると、「授業前のクラスの緊張感をほぐすためにやった。」ということになると思います。これと同じように、「授業中に、私語を使って全く関係のない理科の話をする。」これも別の見方から考えると、「逆に理科の知識を教えてもらった。」ということになります。

このように、友達が授業中にやった行動を見て、

「ちゃんとやれよ。」

「何ふざけてんの。」

という、みんなのいらだちがただよう、あまりよくない空気でしたが、物事を別の見方から考えて行動すれば、不快な感情を持たずにいい空気とその友達を注意できます。

また、笑いをとって周りにいる人を笑顔にしようとするのは、彼の個性です。私はこの個性を否定するのではなく、別の見方から考えて受け入れることを大切にしていきたいです。このことが個性を尊重するのに必要だと思います。

多様性を大切にして個性を尊重するということはどういうことか。私は、自分の考えていることと、相手がどう思っているのかをよく考え、自分の感じていることをしっかり言葉にして相手に伝えることだと思います。自分の事だけで物事を進めてしまうと、相手の感じていることを否定してしまうこ

とがあります。これが個性を否定するということです。相手のことを常に考える。それによっておたがいの個性を尊重し合うクラスにかえたいです。この他にも、

「自分には関係ないから。」

「自分までまきこまれそうだからこの人とは関わらない。」

というのは、個性を尊重するということにはなっていません。積極的に相手と会話したり行動したりするのも、個性を尊重することだと思えます。

これが私の起こしたい変化です。